

令和3年度自己評価シート（中間評価）

校番	067	学校名	広島県立廿日市西高等学校	校長氏名	田中 勲	全・定・通	本・分
----	-----	-----	--------------	------	------	-------	-----

1 短期(本年度)経営目標

【短期(本年度)経営目標】 1-1 進路目標実現に向けた教科学力と高みに挑戦する態度を育てる。	
【本年度行動計画】 進路希望の実現に向け、個別面談を継続的に実施し、個に応じた情報提供や丁寧な学習アドバイスを 行う。また模擬試験の事前指導や事後の振り返り学習等、模試分析を有効活用する。	評価
	B

【短期(本年度)経営目標】 1-2 ICTを効果的に活用して、個に応じた主体的な学びを構築する。	
【本年度行動計画】 生徒個々の実態に応じた学習や、協働的な活動を支援するためのICTの効果的活用について各教科で年 間授業計画を策定し、実践する。	評価
	B

【短期(本年度)経営目標】 1-3 家庭学習の習慣化を図る。	
【本年度行動計画】 個人面談等を通じ、宅習記録を活用した学習方法の助言等を行い、家庭学習の定着を図る。また、学年ご とに各教科の課題内容を集約・把握し、組織的に指導する。	評価
	B

【短期(本年度)経営目標】 2-1 生徒自らが探究活動に取り組み、自ら考えたことを他者に向かって表現する力を養う。	
【本年度行動計画】 廿日市市等との連携のもと、SDGs の視点を取り入れた「ふるさと探究」を軸に「総合的な探究の時間」を 再構築し、3年間のロードマップを策定するとともに、実践を行い、年度末に発表会を開催する。	評価
	B

【短期(本年度)経営目標】 2-2 基本的な生活習慣を身に付けさせ、当たり前の方が当たり前になれる意識を育てる。	
【本年度行動計画】 基本的な生活習慣の確立に向け、遅刻ゼロをスローガンに毎日の登校指導に加え、家庭との連携を強化し 指導の徹底を図る。	評価
	B

【短期(本年度)経営目標】 2-3 学習環境の整備に向け、協働して校内美化に取り組む。	
【本年度行動計画】 生徒会主導で校内掲示板や校内放送により生徒の環境美化意識を高めるとともに、清掃点検の実施や大掃除の回数を増やす取組を行う。	評価 C

【短期(本年度)経営目標】 3-1 学校行事(合唱祭・文化祭・体育祭, クラスマッチ等)の意義を踏まえ、生徒の活躍の場として活性化を図る。	
【本年度行動計画】 学校行事における生徒満足度を高めるため、生徒会執行部が各種委員会活動の充実を図り、全生徒を巻き込んだ準備・運営を展開する。	評価 B

【短期(本年度)経営目標】 3-2 地域ボランティア等の自主活動や、外部機関・団体と連携した交流活動を推進する。	
【本年度行動計画】 学校外機関や異校種校との連携を図り幅広いボランティア活動の機会を得るとともに、生徒会や部活動と連携し、積極的な参加を促す。	評価 C

【短期(本年度)経営目標】 3-3 世界の文化の多様性の理解に向け、異文化間交流活動を推進する。	
【本年度行動計画】 諸団体が企画する異文化間交流活動への参加を積極的に奨励する。また、姉妹校等海外の学校とのオンライン交流を学校として1回以上行う。	評価 A

【短期(本年度)経営目標】 4-1 教職員の長時間勤務の縮減に向けた業務改善を推進する。	
【本年度行動計画】 計画的かつ効率的な時間の活用法や、部活動指導の在り方等、業務改善について教職員で意見交換ができる研修を計画的に実施する。	評価 B

【短期(本年度)経営目標】 4-2 教職員の生徒と向き合う時間の確保に向けた職場環境の整備を図る。	
【本年度行動計画】 中間評価時に各分掌で年間業務量を再確認し、部内分担の見直しを図る。また、年度末評価時に次年度への改善に向けた課題を整理し、集約・共有する。	評価 B

2 中間評価のまとめ

<p>評価結果の分析</p>	<p><b>【1-1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 進路別ガイダンスや入試方式別のガイダンス等を実施することで進学情報を提供したり、学習方法や計画立案を促したりするなどした。</li> <li>○ 模擬試験デジタルサービスの活用をLHRの時間を利用して実施した。自宅で利用している生徒はごく少数であったが、classiの導入もあり、利用する生徒は増加している。</li> <li>○ 教員対象に「小論文及び志望理由書の指導について」をテーマに研修会を開催した。昨今の入試事情も変化してきており、概ね好評であった。また、生徒の状況と学習指導（スタディサポート分析）に関する研修は定期的に行う予定である。また、3学年では学期に1度の進路検討会を実施し、学年会内の生徒情報共有化と今後の指導について検討する機会を設けている。できることなら1年次、2年次で各1回開催したい。</li> <li>○ 授業の中で進路先の探究や志望理由書の作成、面接指導などの実施はできているが、志望理由が深まらず作成に時間のかかる生徒が多い。面接指導に関しては、必要な生徒に事前ガイダンスを実施し、過去の問題を各自調べて傾向を把握させるなど、自主的に行動するように仕向けた。今後は1、2年生からの学習集団づくりをしていく必要がある。</li> </ul> <p><b>【1-2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ICTの効果的活用に向けて、教職員全員にiPadを配置し、活用を促している。各教科での具体的な活用方法については差があり、組織的に効果的な活用を目指すことが課題である。</li> </ul> <p><b>【1-3】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平均家庭学習時間は平時、試験時ともに、1回目の調査より2回目の調査の方が約15分増加している。1日の平均学習時間30分未満の生徒の割合は、平時26.7%が15.4%に、試験時7.3%が4.9%に減少しており、全体的な底上げが必要である。生徒集会はコロナ禍の影響で持っていないが面接旬間等を活用し、個人面談を通じて学習方法の助言等を行い学習に対する意欲を高めている。</li> </ul> <p><b>【2-1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今年度も廿日市市と連携を取り、第1・2学年で「ふるさと探究」に取り組んでいる。第2学年では、「SDGs新聞」を作成し、SDGsの概念について学習を行い、第3学年の企業研究においてはそうした学習を踏まえて探究活動を進めている。</li> </ul> <p><b>【2-2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 8月末現在の遅刻者数は、延べ332人（1年生105人 2年生97人 3年生130人）となっている（昨年度は延べ338人。通院や不登校傾向にある生徒の遅刻も含む）。ここまでの1日平均遅刻者数は、4.31人であり（昨年度4.17人）、増加傾向にある。</li> <li>○ 上半期の遅刻ゼロキャンペーンを実施した。遅刻ゼロ達成クラスは1クラスだった。キャンペーン中の遅刻者は昨年度よりも減少している。</li> <li>○ 服装頭髪指導における人数は、延べ177人（1年生73人 2年生65人 3年生39人）であり、昨年度の141人から増加している。</li> </ul> <p><b>【2-3】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ コロナ禍の影響により、環境整備に向けた活動はほとんど取り組めていない。しかし、生徒会執行部を中心に玄関清掃やペットボトル整理、部室の整理等、地道な取組を進めている。</li> </ul> <p><b>【3-1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 合唱祭は中止となったが、文化祭は生徒会執行部や文化委員が中心となり、全生徒を巻き込む形で実施できた。コロナ感染症対策の制限はあったものの、各クラス・各部活動の生徒がアイデアを出し合い、交流を深めることができた。事後アンケートでは「大変よかった」「良かった」という肯定的意見が87.9%あり、生徒の満足度は高かった。</li> </ul> <p><b>【3-2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ コロナ禍の影響により、地域ボランティア等の活動にはほぼ取り組めていない。しかし、生徒会執行部を中心として、「廿学ラジオ」に本校生徒が参加するなど、外部の機関との連携を通して活動の機会を得ることで、本校のPRにもつなげている。</li> </ul>
----------------	---

	<p><b>【3-3】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外部の留学幹旋業者が主催し、県内の高校生が参加するエンパワーメントプログラムを全クラスに紹介した。興味・関心を持った生徒が説明会に数名参加し、前向きに検討している。</li> <li>○ 県教育委員会の仲介で、オーストラリア連邦クィーンズランド州立学校とオンライン交流を開始した。9月中旬に両校生徒による交流会議を開いた。今後も授業の中で、複数回交流を行う予定である。</li> </ul> <p><b>【4-1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員の長時間勤務の縮減に向け、細めな声かけや、定時退校の呼びかけを行った結果、月80時間以上の時間外勤務となった者は9月現在で0名である（昨年度同時期11名）。</li> </ul> <p><b>【4-2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 4月当初の分掌再編により、昨年度よりは各分掌業務の負担感が軽減された。しかしながら、コロナ感染症対策により、生徒と向き合う時間がやむをえず制約されたことから、教職員のストレスの解消には至っていない。</li> </ul>
<p>今後の改善方策</p>	<p><b>【1-1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 模擬試験などの振り返りにおいて、進路目標を実現するために、家庭学習の重要性を意識付ける。学習の方法について、各教科に分析を依頼し、次回の模擬試験に向けてのアドバイスを集約し、classiで発信するなど情報の提供と意識付けを行った。今後も計画的に各教科と連携を図っていく。</li> <li>○ 生徒に早期に進路目標を設定させるために、1、2年生で進路別・分野別ガイダンスを実施したり、学校、学部研究を深めるLHRを設定したりするなど、進路研究を深める工夫を考え、実践に向けた計画を立案していく。</li> <li>○ 担任が、生徒ときめ細かい面接指導ができるよう、引き続き情報提供を進める。教員に対してはデジタルサービス活用に関する情報提供やcompass及びファインシステムの利用を呼びかけるなど、活用の促進に向け働きかけを強化する。</li> </ul> <p><b>【1-2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各教科でICT活用の授業計画を策定し、実施検証を行うために様式を作成し周知・依頼をする。</li> </ul> <p><b>【1-3】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各教科の課題等を生徒に定期的に課すことにより、家庭で一定の学習時間を確保できるような指導を継続していく。面接仲間等における面談を通じて、進路希望の実現に向けた家庭学習の必要性や学習方法の助言をマンツーマンで行うことで、家庭学習の定着を図る。</li> </ul> <p><b>【2-1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現在の「総合的な探究の時間」の取組を見直し、本年度の成果と課題を整理して、来年度以降の入学生に対し、高校での3年間のロードマップを作成する。</li> </ul> <p><b>【2-2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 遅刻防止に向け、集会等を積極的に活用するなどして、全校に呼びかけ、意識の変容を促す。</li> <li>○ 遅刻で指導対象となった生徒には、多くの教員で関わり、一人一人丁寧な指導を行う。</li> <li>○ 下半期の遅刻ゼロキャンペーンを11月に実施し、生徒の意識喚起をして遅刻者数の減少に繋げる。</li> <li>○ 生徒の身だしなみ等について、定期的な服装頭髪指導とともに、日常から生徒の様子に注意し、細やかな指導を継続する。</li> </ul> <p><b>【2-3】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 感染症対策に留意しながら、下半期は通学路クリーンアップ作戦や学校間交流等の行事を実施し、生徒の活動の場を増やしていく。また、生徒の美化意識を高めるために、生徒会による校内放送での呼びかけ等を行う。</li> </ul> <p><b>【3-1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒会執行部の自主性向上と全生徒が運営に関われる学校行事に向け、充実を図る。今年度から設置した「意見箱」や校内掲示板を積極的に活用し、生徒の意見を反映できる生徒会活動を目指す。</li> </ul>

	<p><b>【3-2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幅広いボランティア活動への参加機会を得るために、学校間や学校外機関との連携を図る。生徒会執行部中心にキャンペーンを実施するとともに、各部活動にボランティアへの積極的な参加に向けた協力を要請する。</li> </ul> <p><b>【3-3】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 諸団体が企画する異文化交流に関する行事やイベントの案内を積極的に行い、生徒が活発に活動できる場を提供する。</li> <li>○ オーストラリア連邦クィーンズランド州立学校とのオンライン交流は、今年度4回以上の実施を目標とする。</li> <li>○ ホームページの積極的な更新や学校説明会（オープンスクール）の充実など、積極的な広報活動に引き続き取り組む。</li> </ul> <p><b>【4-1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校務のスクラップを積極的に行うに当たり、校務運営会議等で取組の重要性について協議する機会を設け、学校として重点的に取り組む項目と取りやめる項目を明確にしていく。</li> </ul> <p><b>【4-2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 組織内で計画的な業務の遂行が図れるよう、情報共有や進捗状況の確認を行うとともに、ワークライフバランスを意識し、効率よく働くことができるよう、備品・設備の面で職場環境の整備を図る。</li> </ul>
<p>学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各教科で育てたい資質・能力について、具体的に生徒の目指す姿を整理し、教員間で確認し共有する。年間評価計画・単元指導計画について、生徒実態に合わせ検証し、次年度へ向けた改善を図る。</li> <li>○ 学習意欲を高めるため、引き続きICTを活用した授業づくりを行うとともに、授業における生徒の思考を促すような発問の工夫や、定期試験での思考力を問う問いの出題を継続する。</li> <li>○ LHRや総合的な探究の時間を利用し、進路別・分野別ガイダンスや学校・学部研究、探究活動を充実させ、主体的に自身の進路を考える取組を進めることで、高い目標に向かう姿勢を育てる。</li> <li>○ 不登校生徒や遅刻生徒に対し、面談とともにきめ細かい教科指導を行い、学力の定着を図る。学校と保護者・地域住民等の連携を強化し、協働して社会性を育む指導を進める。</li> </ul>